

令和7年度 第10回タウンミーティング

能美市老人クラブ連合会とのタウンミーティング

日 時 令和7年12月10日（水）16:00～17:15

会 場 辰口福祉会館 交流ホール

参加人数 74人

1) 開会

2) 能美市老人クラブ連合会 安田会長挨拶

3) 市長 市政報告

○はじめに

～能美市長の一日・一か月、プロフィールを紹介～

○主なできごと

- ・2005年に能美市が誕生し、2015年に10周年式典を実施した。2015年は北陸新幹線金沢開業の年でもあり、翌2016年にはマイナンバーカード制度が開始された。
- ・2017年はロシア・シェレホフ市との姉妹都市提携40周年の節目であった。
- ・2018年には夏の甲子園が100回大会を迎える、「栄冠は君に輝く」の作詞者である加賀大介氏のタイムカプセルを掘り起した。
- ・2019年に令和が始まり、2020年にはSDGs未来都市に選定された。
- ・東京オリンピック・パラリンピックは新型コロナウイルスの影響で1年延期され、無観客で開催された。能美市からはライフル射撃の平田しおり選手が出場した。
- ・2022年には成人年齢が18歳に引き下げられた。

- ・2023年は加賀立国能美誕生1200年の節目であり、さまざまな催しを実施した。
- ・2024年には北陸新幹線の石川県内全線開業を記念し、「折り紙で作った電車の最多展示」に挑戦した結果、8万2,034枚でギネス世界記録に認定された。

○自然災害など

- ・2018年の豪雪、2020年の新型コロナウイルス感染症拡大、2022年8月の豪雨災害、2024年元日の能登半島地震など、さまざまな災害があった。能登半島地震では津波警報が発令され、避難する車で大渋滞が発生した。
- ・今年は熊の出没が相次いでいる。

○市内の状況

- ・TOPPAN(株)が社名変更を行い、日本国内で初めての進出先が岩内工業団地であった。
- ・いしかわサイエンスパークの企業誘致等がなかなか進んでいないが、成果を出せるよう取り組んでいる。
- ・和田山古墳群周辺には防災センター、警察署、能美ふるさとミュージアムができた。ふるさと歴史の広場は滑り台を1台増設して2台としたことで、土日には多くの人でにぎわっている。
- ・能美工業団地には日本ガイシ(株)が進出しており、新たに同面積の工場を建設するため、現在造成工事を行っている。
- ・能美根上駅が新しくなり、能美根上スマートICも完成した。周辺にはビジネスホテルや飲食店ができ、当初想定より多くの自家用車やトラックが利用している。ホテルの稼働率も良い。
- ・加賀海浜産業道路沿線の福島グランパークには、戦略的企業誘致により女性が多く働く企業が進出している。グランパーク内には保育園もあり、今後は総合商業施設の整備も予定されている。
- ・障がいのある子どもも利用できるインクルーシブ遊具を備えた公園を2か所整備した。
- ・KAM能美市九谷焼美術館 | 体験館 | を新しくするとともに、学習センター内の子ども宇宙科学室もリニューアルした。
- ・園舎の老朽化や幼児教育への要望を受け、保育園の民営化に取り組んでいる。公立保育園15園のうち、福島こども園、湯野こども園を民営化し新園舎となった。緑が丘のわかば

みどりこども園も間もなく新しくなる。現在は4園目となる福岡こども園の民営化を進めている。

○ふるさと能美市を知ろう

- ・能美市は東西16km、南北5km、面積が84.14km²のコンパクトな市である。
- ・県内19市町の中で、人口は上から6番目、面積は下から6番目、人口密度は上から4番目、工業製品出荷額は上から4番目、女性の就業率も上から4番目である。
- ・人口当たりの外国人比率は県内1位で、市内には約1,700人の外国人がいる。国籍別ではベトナム人が最も多く、次いで中国人、インドネシア人である。企業で働く外国人が多いことに加え、北陸先端科学技術大学院大学の学生がいることが背景にある。
- ・特産品は丸いも、ユズであり、たまねぎの生産量も多い。九谷焼、押し寿司など、多様な特産品がある。

○令和7年度予算編成方針

- ・自治体の勢いを示す指標の中でも人口が重要であると考え、全ての施策が移住・定住促進につながるよう取り組んでいる。
- ・能美市では自然動態はマイナスである一方、社会動態はプラスであり、自然減を社会増でカバーして、現在は人口が微増している。
- ・合計特殊出生率が全国・石川県で低下する一方、能美市は上昇している。
- ・高齢化率は大きく上がっておらず、市内には100歳以上の方が37人いる。内訳は男性3人、女性34人である。
- ・市税が大変好調であり、企業誘致の進展、人口増、賃金上昇等が要因として挙げられる。

○いきいきプラチナプラン

- ・プラチナプランの基本理念は、「すべての市民が支え合い 住み慣れた地域で 安心して年を重ねることができるまちづくり」である。5つの基本目標があり、今回は基本目標に沿って説明する。

1. 個々の意欲・能力を生かし元気に活躍することができる

- ・老人クラブ主催で、元・金沢大学附属病院長の富田先生による「足腰丈夫でニコニコ100歳!」の講演が行われ、大盛況であった。

- ・グラウンド・ゴルフでは、県大会で能美市がいつも上位に入っている。
- ・敬老会は参加者が減少してきたため、各町会・町内会ごとの開催とし、周年のときは大きく開催する方針としている。今年は20周年のため、加賀山さん親子や一川明宏さんを招き、タントで開催した。民謡や三味線の披露があり、満員の会場が大いに盛り上がった。
- ・多くの事業を行うことで、老人クラブがさらに活性化していくと考えている。
- ・20周年記念事業として、8月にNHKラジオ体操の収録を実施した。開始30分前の午前6時に約1,400人が集まり、主催者から高い評価を受けた。
- ・北陸鉄道能美線跡の健康ロードをリニューアルし、10月25日の完成記念式典で約16kmを歩いた。同日夜のみふる古墳まつりでも古代衣装で歩き、この日の歩数は過去最高の2万7,475歩となった。
- ・10月26日には「なんでも鑑定団」の収録があり、多くの方から鑑定依頼の申し込みがあった。
- ・今週土曜日に開催する、ゆかりのプロミュージシャンによるコンサートでは、市の観光大使が出演する。まだ席に余裕があるので、ぜひお越しいただきたい。
- ・和気の岩ドッグランをリニューアルし、エリアを従来の約3倍に拡張した。土日には多くの人が利用している。
- ・のみでん広場の車両を能美根上駅へ移設し、無人コンビニとして活用する計画である。のみでん広場の空いたスペースには北陸鉄道から貨物車両を譲り受けて展示する。旧駅員室は喫茶コーナーとし、そこで働く人たちに駅利用者のサポートをしてもらう計画である。
- ・辰口フラワーhaus跡地周辺には動物園や丘陵公園があり、道の駅的機能を持つ場所にしたいと考えている。

2. 心身機能の維持・向上を図り自分らしく生活できる

- ・市内の公民館等にWi-Fiを整備し、デジタル公民館として取り組みを進めている。例えば、高齢者はいきいきサロンやスマホ教室、子育て世代はeスポーツ体験、子どもはChromebookを持参した学習などで公民館を活用する。子どもが学習で分からぬ点を教わる、高齢者がスマホの使い方を聞くなど、多世代交流を公民館でできないかと考えている。
- ・オンライン診療にも取り組んでいる。例えば慢性疾患の方は、毎月かかりつけ医に行って、診察を受けて薬をもらう必要がある。それを公民館でオンライン診療を受けることによって、病院や薬局に行かなくても薬をもらえるようにしようと。今実証を進めている。
- ・ライドシェア「ノルノミ」の実証実験を国造地区周辺で開始した。また、スマート物流

も開始したが、両事業とも利用者が少ない。サービスをパッケージングし、定額制で利用者を増やせないか検討している。利用増のアイデアがあれば教えてほしい。

- ・地域共生交流館（旧・亀齢荘）を、高齢者だけでなく子どもや障がいのある方も利用できる施設とするため、建設工事を進めている。

3. 市民・地域・関係機関・行政の連携による支援体制の充実

・地震被害想定に基づき避難物資の備蓄を進めている。今年5月に公表された新想定では、避難者数が従来想定の約3倍に変更された。能登半島地震の教訓を踏まえ、数量だけでなく内容も見直し、トイレや乾式哺乳瓶などを増やしている。

・水害時でも災害対策本部を支障なく開設できるよう、市役所地下の電気設備を1階へ移設するため、本庁舎横に防災・機能強化施設を建設する。

・あらゆる自然災害時に24時間365日いつでも避難対応ができるよう個別避難計画作成を進めている。身体が不自由な人や高齢者等が災害時に取り残されずに避難できるようにする。

・防災行政無線は、音声が聞き取りづらいという声を受け更新した。災害情報をいつでもどこでも受け取れるよう、公式LINEとNomiメールも導入した。

・防災設備を充実させ、はしご車や津波・大規模風水害対策車、ドローン等、いろいろな資材を整えている。また、救急車も能美市の人団規模では、3台体制で十分とされているが、金沢大学附属病院や県立中央病院への搬送を行うとなると、その間、市内が手薄になることから最新鋭の救急車をもう1台増やし、4台体制とした。

・石川県警から安全安心・広報インフルエンサーに任命され、ブログ等で情報発信している。能美市でも特殊詐欺が多いため、詐欺撲滅大使としてスーパー等で啓発活動を行い、ケーブルテレビ「GO! GO! PR」でも注意喚起を行っている。

4. 医療と介護・保険の連携体制を構築する

・電子カルテの整備を進めている。能登半島地震では、電子カルテに登録していた避難者が能美市でも処方や透析を受けることができた。電子カルテ化が進めば、他の医療機関でも検査結果や処方内容を確認でき、緊急搬送時にも必要な情報を活用できる。一方で診療情報は配慮が必要な内容を含むため、開示範囲や開示対象者などの整理が必要である。

・市立病院が老朽化しているため、能美市立病院の在り方検討委員会を立ち上げ、地域医療体制の検討を進めている。

5. 安定的な介護保険制度を運営する

- ・あんしん相談センターが3か所あるので、体調や生活に不安がある場合は相談してほしい

い。できるだけワンストップで対応し、その場で完結できるよう取り組んでいる。

- ・健康づくりや介護予防のため、各種教室や活動、交流の場を設けているので、ぜひ参加していただきたい。
- ・老人クラブ連合会から要望書をいただいている。今回は回答できないが、喜んでもらえよう取り組んでいきたい。

○持続可能な行財政改革

- ・公民館、体育館、上下水道管などの老朽化が進んでいる。市内の11小中学校も老朽化しており、築50年以上が面積比で35%を占めるため、改修に莫大な費用が必要となる。まずは安全・安心でおいしい給食を提供するため、学校給食センターを新設した。
- ・財源確保のため、ペーパーレスやフリーアドレスに取り組み、3年間で約1,700万円の効果が出ている。能美市誕生20周年の節目に、抜本的な経費削減に向けて全事業・施策の見直しを進めている。

4) 質疑応答、意見交換

質問・意見 1

【参加者】来年度から辰口福祉会館の入浴料が上がると聞いて心配している。

【市長】市外からの利用者も多く混雑しており、何とかしてほしいという要望があるため、料金変更を検討し始めている状況である。

質問・意見 2

【参加者】今後もっと取り組みたいことと、市長でも緊張することがあるのかを教えてほしい。

【市長】いつも緊張しており、気が緩まるのは孫と一緒にいるときくらいである。一番取り組まなければならないことは財源確保であり、老朽化施設の更新や新規整備、各事業を進めるための財源をどう確保するか、また何をどの順番でどの規模で進めるかが重

要だと考えている。

質問・意見 3

【参加者】一番心配なのは介護である。現状、介護施設への応募者が多く、受け入れが追いつかないと聞いている。今後さらに増えると思うが、市としてどう対応していくのか。

【市長】今後は在宅で過ごす方が増えると言われており、デジタル技術の活用や民生委員・児童委員、ケアマネジャーの充実等で在宅生活を支援したい。一方で施設入所が必要な場合もあるため、民間の力も借りながら、できるだけ待ち時間が少なく入所できるよう取り組みたい。

5) 能美市老人クラブ連合会 松本副会長挨拶

6) 閉会